



# DX推進について

株式会社イントリーグ

## 経営者メッセージ



当社は、「顧客の事業がより良くなるよう、ITのプロとして一緒に考え、行動する」というミッションのもと、RFP作成やベンダー選定などの調達支援を通じて、顧客のDX推進に伴走しています。

私は実務執行総括責任者として、まず当社自身が生成AIをはじめとするデジタル技術を積極的かつ安全に活用し、情報収集、提案品質、業務効率、ナレッジ共有の向上を主導します。

あわせて、全社員が継続的に学び、楽しく働きながら新たな価値を生み出せるよう、教育、活用ルール、情報セキュリティ、効果測定の仕組みを整備します。

これらの実践で得た知見を顧客支援へ還元し、「楽しく働き、世の中の役に立ち、価値を生む」というビジョンの実現と、顧客および社会の持続的な発展に貢献してまいります。

2026年9月9日

株式会社イントリーグ 代表取締役 兼 CEO 永井昭弘



## 〈 INTRIGUER Mission 〉

顧客の事業がより良くなるよう、  
ITのプロとして一緒に考え、行動する。

## 〈 INTRIGUER Vision 〉

楽しく働き、  
世の中の役に立ち、  
価値を生む。



ミッション、ビジョンを実現するために以下の方向性で取り組みます。

## ■ アウターブランディング（顧客に向けて）

自社における継続的なDXの実践と検証を通じて得られた知見を、顧客への最適な提案や、新たな価値を生み出す新サービスの創出へと還元します。

また、システム調達及びITサポートにおける『DX事業者』としてのブランドポジションを確立し、市場における認知と信頼のさらなる強化を図ります。

## ■ インナーブランディング（社内に向けて）

一人ひとりの興味・関心に寄り添い、DX人材としてのスキル向上ができる制度や環境を整えます。

また、データやデジタル技術を活用したタレントマネジメントの強化により個々のパフォーマンスを最大限に引き出す組織を目指します。



## ■ 戦略①（アウターブランディング）

生成AIによるコンテンツやシステムのプロトタイプ作成、AIアシスタントの構築など、最先端のデジタル技術を実際の業務運用する中で実践知を蓄積し、管理・分析しています。この知見をもとに、調達プロジェクトやITサポートのコンサルタント業務における品質向上を実現し、『DX事業者』としてのブランドを確立します。

## ■ 戦略②（インナーブランディング）

経費精算・売上管理システムの導入や、ミーティングの議事録作成・文字起こし等におけるAIの活用を通して社内バックオフィス業務を大幅に効率化します。そうして創出された時間をスキルアップや学習に充てることで「イントリーグで楽しく働く」ことの実現を目指します。

# DX推進体制



DX推進の実務執行統括責任者は代表取締役が務め、社内にDX推進メンバー（3つの担当分野ごとのリーダー選任）を配置し、全社横断的なDX推進体制を構築しています。



委員会



代表取締役（実務執行統括責任者）

∞ DX推進のプロジェクトリーダー



DX推進メンバー

- ∞ 顧客向けサービス開発担当
- ∞ 人材育成教育担当
- ∞ AI開発担当



当社では、学ぶ意欲のある社員への支援を積極的に行っており、特にDXに関する知見を深めるための環境づくりに力を入れています。

代表取締役が中心となって社内のDXに関する話題を共有しているほか、社員全体会議でのDX事例紹介も行っています。

また、スキルアップに必要な書籍代の負担や各種資格の受験料の補助といった制度を整え、社員の挑戦と成長をバックアップしています。

## DX推進指標（KPI）



■ 人材投資の拡大 : DX育成予算を2026年度予算比で2028年度までに2倍に拡大

■ DX学習の場の創出 : 2か月に1回の全体会議でDX講習を実施（30～60分）  
週1回の営業会議での各顧客先のDX事例の報告

■ AI開発の実践 : AI開発ツールを使用した社員による社内システムの構築  
（年4件ペース、対象業務の効率化20%以上を目標）

# DX推進のための環境整備



当社では、DX推進のために以下の環境整備に取り組んでいます。

## ① 情報基盤・セキュリティの強化

- ・ 情報セキュリティ基本方針の策定
- ・ IT・ネットワーク基盤の整備
- ・ セキュリティ体制の強化
- ・ プライバシーマークの取得
- ・ SECURITY ACTION二つ星 自己宣言済み

## ② 柔軟な働き方の実現

- ・ テレワーク環境の整備
- ・ 在宅勤務制度の運用

## ③ 業務効率化・生産性向上

- ・ グループウェアの導入
- ・ 経理精算システムの導入
- ・ 案件管理システムの開発（AI開発ツールを利用）

## ④ 最新テクノロジーの活用

- ・ 生成AI活用環境の整備  
（現在、社内向けAIアシスタントを開発中）

## ⑤ スキルアップ・挑戦への支援

- ・ 代表取締役を中心とした、社内でのDXに関する知見・話題の積極的な共有
- ・ スキルアップに必要な学習費用（書籍の購入・有料セミナーの受講など）の負担
- ・ 各種資格の受験料補助制度の運用